

【河川】阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会を開催しました！

1. 概要

- 阿武隈川上流で発生しうる大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や県、国が連携して、減災のための目標を共有し、対策を一体的かつ計画的に推進するため、**4月28日に減災対策協議会を設立**しました。
- 今後、「逃がす・防ぐ・取り戻す」ための取組を進め、防災意識向上や被害最小化を図るため、関係機関が5ヶ年で取組むべき内容を定めた「**地域の取組方針**」を8月を目標に策定します。

2. 日時／実施状況

- 日 時：平成28年4月28日(金)
- 場 所：コラッセ福島 4階多目的ホール
- 出席者：伊達市(市長)、国見町(副町長)、桑折町(総務課長)、福島市(市長)、二本松市(市民部長)、大玉村(村長)、本宮市(副市長)、郡山市(市長)、須賀川市(生活課長)、玉川村(村長)、福島气象台(次長)、県(次長)、三春ダム(所長)、摺上川ダム(所長)、福島河川国道事務所(所長)

議事内容

- ・(1)規約及び傍聴規定の説明
⇒異議なし、協議会設立
- ・(2)～(4)ビジョン、現状の水害リスク、減災目標の説明
⇒一括説明後に意見交換、出席委員からご発言

関係機関 約70名が参加



会場全景(コラッセ福島)

3. 主な意見・コメント等

- ・今年、S61.8洪水から30年という節目の年であり、甚大な水害を振り返り、教訓を学ぶための様々な取組が重要。
- ・洪水時に頂けるホットラインは大変有り難い。国から頂いたりリアルタイム情報を踏まえ、避難判断の材料としたい。
- ・住民に伝える情報は、もっと分かりやすい言葉にする必要。
- ・関東・東北豪雨のような異常降雨に対しては、施設で「防ぐ」よりは、もう「逃げる」しかないと感じた。
- ・住民に対して、的確かつ確実な指示を出すということの必要性、難しさを痛感している。
- ・出水時の防災無線整備などが必要。
- ・阿武隈川の治水は、県人口の半分を占める約130万人もの流域人口の人命に関わるという重要性を認識すべき。
- ・大規模水害時の避難は、一行政区の中で決めることには限界があり、それだけでは収まりきれない。



伊達市 国見町 桑折町 福島市 二本松市



大玉村、本宮市 郡山市 須賀川市 玉川村